

2008年11月6日

2009年3月期 第2四半期決算説明会 Q&A

テレビ東京 広報・IR部

- Q 下期タイム見通しについて、マイナス幅が大きいですが、その理由は。
- A 上期は少し厳し目に、下期は少し回復期待で予算編成したが、利益率の高い深夜枠やミニ枠の落ち込みなどで、むしろ下期に厳しさが出てきた。それを織り込んだためである。
- Q 深夜枠とミニ枠の売上げが特に減るといのは、どう理解すればよいか。
- A 深夜アニメなどの競争力が落ちてきた。アニメは重要な資産なので、強化策を話し合っている。
- Q 制作費を削減していく中で、412億円よりも更に下がる可能性はあるのか。
- A 現場ではもうぎりぎりの所という認識だ。今期については下げられる余地はないと思う。この線でなんとか堪えたいが、更に深刻になった場合は、0ベースで全てを見直ししようと考えている。
- Q 来期を見据えた増収策はあるのか。
- A 広告主がこの番組ならCMを出稿するというような、良い番組を作ること。それを営業収入に繋げて、再び番組制作費に帰ってくる。  
この仕組みを再構築する以外にない。奇策を考えずに王道を見つけることだ。
- Q 配当について、下限20円、配当性向25%というのは、あくまでもある一定の利益水準が出る前提では？来期に利益の水準次第では、無配という可能性はあるか。
- A 通期の純利益の見通しが赤字であるため、最低の約束である20円とした。配当可能利益は確保できている。当社の配当の基本方針に変わりはない。
- Q 制作費だが、業績を踏まえて1日1億円、年間365億円というのは水準としてどうか。
- A 制作費を下げれば、番組の質の問題、視聴率の問題など色々出てくる。バランスの取れた編成で、結果的に制作費をかけなくても済むような方策を考えたい。

以上